

CREEPS & DIG TOKYO presents  
CREEPS HAPPENING!!! Vol. 2  
an exhibition by  
YASUMASA YONEHARA × ENLIGHTENMENT  
"PARTY"

Ag

PRESS RELEASE

米原康正とエンライトメントのコラボレーション展開催のお知らせ

2009年9月28日  
株式会社エージーリミテッド



<概要>

■米原康正 × エンライトメント "パーティ"

■会期：11/6 (金) -11/8 (日)

■会場：studio/gallery CREEPS  
〒150-0001

東京都渋谷区神宮前 3-1-28 第二真砂ビル 3F  
T/F 03-5411-8855 www.creeps.jp

■オープニング・レセプション：

11/6 (金) 19:00-21:00

■パーティ：

11/6 (金) 22:00-26:00

(¥1,500 w/1 drink & カタログ)

■米原康正 × ヒロ杉山トークショー：

11/7 (土) 昼間～夕方を予定。

問：studio/gallery CREEPS

T/F 03-5411-8855 www.creeps.jp

この度、株式会社エージーリミテッドが運営するウェブ・メディア DIG TOKYO (www.digtokyo.com) と、studio/gallery CREEPS との共催で、米原康正とエンライトメントのコラボレーション展を開催いたします。

本展は、チェキの組み写真による作品で国内外から高い評価を得る米原康正の長年にわたる「夜のフィールドワーク」の結晶とも言うべきパーティ・スナップを、ファイン・アーティストでありながら広告やPVなど平面から映像までを手がけるヒロ杉山主宰のアーティスト集団・エンライトメントがオリジナルの手法「デジタル・ペインティング」で制作した作品 15 点で構成されます。

作品のテーマは "パーティ"。

毎週末行われているパーティへ長年にわたって通い続け、米原だからこそ撮れるパーティスナップは『EYESCREAM』誌での連載「YONE's PHOTO SCRAPBOOK」などでも人気を博しています。「現在、最も若い女子の心が分かる写真家」と彼が評されるのは、このフィールドワークの賜物であることは間違いありません。

米原康正

編集者、クリエイティブディレクター、アーティスト。90年代に伝説的写真投稿雑誌『アウフォト』を創刊し、国内外で高い評価を受ける。その後、チェキで女の子の写真を撮りだしたところ、素のままをセクシーに写すガリナーな世界観が大好評を博し、現在世界で唯一チェキをメイン機材とするアーティストとして、国内外問わず雑誌、CDジャケット、ファッションカタログなどで幅広く活躍。世界で最も注目される日本人アーティストの1人である。

エンライトメントもまた90年代半ばから20年以上にわたり、VJとして様々なパーティの演出に一役買ってきました。日本におけるVJの先駆者として、今も国内に留まらず海外でも活動を続けています。そして、実は30年来の仲でありながらこれまで仕事を共にすることのなかった2人を本展に導いたのは、"パーティ"での他愛ない会話からでした。

もう一つ、本展において2人が掲げる重要なポイントがあります。それは互いに世界を股にかけるファイン・アーティストとして、"アートの垣根を低くしたい"という思いです。敷居の高いホワイト・キューブのギャラリーではなくstudio/gallery CREEPSのような空間で、一点モノのアート・ピースではなくインクジェット出力による作品を展示するのは、週末のクラブ・パーティに遊びに行く感覚でアートに触れてほしいという思いがあつてこそなのです。

現在、東京のポップ・カルチャーにおいて最も注目されるアーティスト2人によるコラボレーション展、貴媒体にてご紹介いただければ幸いです。

何卒よろしくお願いたします。

エンライトメント

'97年、ヒロ杉山によって設立。現在のメンバーは、ヒロ杉山、鈴木シゲル、山口要、田中文貴。木村拓哉のCGイラストで話題となったTBC、ホンダHRVなどのCMで一躍注目を集める。ファイン・アーティストとして国内外で活動する一方で、フリーペーパー(『Track』、『Display』)やアートブックの出版(Enlightment Press)、広告・CM、PV、CDジャケットなど、平面～映像まで幅広く手がけている。また95年から日本におけるVJの草分け的存在として活動している。

画像や取材などのお問い合わせ：

DIG TOKYO 担当：村松 info@digtokyo.com 090-3502-6750

CREEPS DIG TOKYO  
www.digtokyo.com